

北海道社会保険病院だより

平成17年3月15日 第12号

検査部の紹介

検査部長 澤田博行

病気はもちろん、職場の健康診断などで病院及び健康管理センターを訪れた多く方は、血液や尿の検査、心電図検査を受けた経験があると思います。現代の病院の医療では、検査は病気の診断や治療を進めていく上で最も重要な役割を果たしています。検査抜きでの医療は考えられないと言っても過言ではありません。

病院には診療を支えるためにいろいろな部門があり、これらをコメディカルと呼んでいます。検査部は放射線部や薬剤部と並んで、無くてはならない部門です。当院検査部には臨床病理医1名、検査技師12名、検査助手2名が働いており、技師たちは、積み重ねた知識と技術で、様々な検査機器を駆使して正確な検査データを、日夜診療現場に送り届けています。ここではその仕事の一端をご紹介します。いただきます。

皆様も一度は来たことがあるかと思いますが、入院棟の2階に検体検査・生理検査・細菌検査・病理検査の4つの部屋があります。

〈検体検査室〉

患者様から採取した血液からは多くの検査データが得られます。白血球、赤血



球の数や形などから、貧血や炎症の程度が推察できますし、肝機能・腎機能・コレステロールなどの脂質項目、B型肝炎・C型肝炎のウイルスなどによる

感染症や免疫機能・腫瘍マーカー・お薬の血中濃度など、尿や便、脊髄液なども検体検査で扱います。また、輸血に関する検査も重要なものです。採血をされる際に「医師や看護師から「お薬はきちんと飲んでいますか?」「今日は何時にごはんは食べましたか?」などと聞かれたことがあるかと思いますが、検査データの中には、食事の影響を受けて高くなったり低くなったりするものや、時間を追って調べなければならぬもの、お薬の効果を見るものなどがあります。お薬をきちんと飲んでいるか、食後の採血なのかなどは、大変大事な事なので、きちんとお知らせください。

〈生理検査室〉

当院の生理検査室では、超音波検査(心臓・腹部・甲状腺・頸部・頸動脈など)、

心電図、ホルター心電図、運動負荷心電図、肺機能検査、脳波検査、めまい検査、睡眠時無呼吸検査などの



検査が行われています。特に超音波検査は苦痛も少なく、妊婦様や小さなお子様、ご高齢の方にも安全に行える検査です。また腹水や胸水を抜いたり、甲状腺や乳腺などの穿刺細胞診にも超音波の機械は欠かせません。当院では、待ち時間を少しでも軽減するため、予約を基本としています。当日の検査をご希望なされる方



ミュンヘン大橋と藻岩山

のご要望にもお応えしております。ただ、どの検査も患者様の御協力なしでは出来ない検査ばかりです。小さな階段を昇ったり降りたりして、心臓をどきどきさせてから心電図を取ったり、苦しい中、何度も息を吸ったりはいたりしての肺活量検査、お腹の超音波検査では、お食事を抜いて頂いたり、尿を我慢して溜めて頂いたり、検査の目的によって約束事がいくつもあります。

入院されている患者様の中には、検査が続くと、今日は朝食を抜いて、明日は昼食を抜いてと、お加減が悪いのに、非常に申し訳ない場合があります。然しながら、食事の影響を受けると、正確な結果を得ることができない場合がありますので、ご協力お願いいたします。

お飲みになっているお薬などの関係や、検査の上でのご不明な点、ご不安がありましたら、検査技師や看護師に遠慮なくお尋ね下さい。



〈細菌検査室〉

食中毒で有名になった病原性大腸菌O157や院内感染でしばしば話題になるMRSAなど病原性微生物(ばい菌)は現代でも重大な病気の原因です。患者様の体内で、どのような病原菌が

病気を起こしているのかを検査するのが細菌検査の役割です。

血液、尿、便、痰、鼻や喉のぬぐい液、化膿した病巣から出る膿などさまざまな検査物の中に病気の犯人となる微生物(ばい菌)を見つけ出すため、顕微鏡で観察したり、培養(培地で原因菌を増殖する)をして怪しい菌の名前を特定し、さらにどのような薬が効果的かも調べます。これはどの抗生物質を治療に使ったら良いのかを選択する上での大事な情報になります。また毎年流行するインフルエンザなどの伝染力の強い病原菌を短時間で見つける検査も行っています。

当院では結核菌の培養には実績があり、通常8週間かかる結核菌の検出も約4週間で可能になっています。



〈病理検査室〉

生検や穿刺と言って、疑わしい組織の一部分を採取したり、手術で摘出された臓器や組織から標本を作り、悪性が良性が、悪性の度合い、転移の有無などを判断する大変重要な仕事です。特に手術中に採られた材料を短時間で組織診断し、その結果で手術方法を決める術中迅速組織検査は診断の責任が重い検査です。また、がん検診で集め

られた検体の中に悪性細胞がないかどうか病理検査の役割です。

病理・細胞の診断は、豊富な経験のある臨床病理医と、日本臨床細胞学会で認定された細胞検査士2名が担当しています。

さらに不幸にして亡くなられた患者様の中で、ご遺族の承諾を得られた場合には、病理解剖をさせていただいております。死因となった病気の原因や、治療の効果などの究明に役立ち、今後の医療の進歩に役立たせていただいております。

〈ちょっと休憩〉

どうして何本も血液取るの？一度採血したのに、何故もう一度取られることがあるの？

と疑問に思われた方がいらつしやると思います。血液中の血糖を測る試験管、コレステロールやGOT・GPTなどの肝機能などを測る試験管、赤血球・白血球などを測る試験管と、検査の種類によって、いろいろな試薬の入った専用の試験管に血液を取らなければならぬからです。

また、血管が細く血液の出ていく方は、血液が部分的に固まってしまったり、溶血という現象がおきる事があります。その場合は、正しい検査の値が出ないため、再度採血をお願いしています。

尿を取るように、カップをもらったが出そうにない。どうしたらいいの？

検査に出される尿は、出はじめでもなく、最後の方でもない、真ん中の尿(中間尿)をコップ半分が良いのですが、少ししか取れなかったり、全然出なかったり、生理中の時などは、一声お知らせ下さい。

昔はすごく大きかったです。24時間ホルター心電計。当院では、テレホンカード位の大きさです。軽くて薄いので好評です。

おわりに

このように病気の診断や治療に検査は極めて重要な役割を果たしております。当院の検査部では検査結果を迅速正確に出すため日々努力を重ねておりますので、安心して検査をお受けください。また、何かお気づきの事がありましたらご指摘下さい。

編 集 後 記

寒い日が続いたと思ったら、暖かい日が来たりと、安定しない日々が繰り返しております。

インフルエンザも流行の兆しを示していますので、体調維持には十分、御留意ください。

編集責任者
事務局 佐々木憲一

北海道社会保険病院
TEL : 011-831-5151

URL : <http://www.hok-shaho-hsp.jp/>